

研究活動報告

日本アフリカ学会第55回学術大会

2018年5月15日(土)・16日(日)、北海道大学にて日本アフリカ学会第55回学術大会が開催された。北海道で同学会大会が開催されるのは初めてだとのことである。日本アフリカ学会は、アフリカに関する研究者が分野を問わず集まるため、普段は交流のない分野の研究者と意見交換することができる。今回は8つのフォーラムを含む140件の口頭発表と、28件のポスター発表が行われた。5つの会場に分かれて口頭発表が行われるため、すべてに参加することはかなわないが、在外アフリカ人の宗教共同体や、湾岸諸国や南ア、日本へのアフリカ人の人口移動に関わる報告、配偶関係と埋葬地に関する報告、衛生、とりわけし尿処理事業の発展についての報告など、多くの興味深い報告があった。筆者はセンサスを用いた保健・福祉人材に関する報告を行った。(林 玲子 記)

日本人口学会第70回大会

日本人口学会第70回大会は、2018年6月2日(土)～6月3日(日)に千葉県浦安市の明海大学で開催された。大会プログラムは以下の通りである。第1日の学会賞授与式では桃田朗会員(優秀論文賞)、筒井淳也会員(普及奨励賞)、大塚柳太郎会員(学会特別賞)にそれぞれの賞が授与され、受賞者からあいさつがあった。

第1日 2018年6月2日(土)

企画セッション① 若年層の経済的自立と家族形成に関する日韓比較

<組織者・座長> 菅 桂太(国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) 日韓若年層の経済的自立と家族形成の状況
.....渡邊 雄一(日本貿易振興機構アジア経済研究所)
曹成虎(韓国保健社会研究院)
- 2) 若年層の経済的自立と異性交際の日韓比較分析.....曹成虎(韓国保健社会研究院)
- 3) 地域差を考慮した若年層の自立と初婚タイミングの日韓比較
.....菅 桂太(国立社会保障・人口問題研究所)
曹成虎(韓国保健社会研究院)
- 4) 青年層の家族形成と所得格差の日韓比較：親同居シングルの動向
.....四方理人(関西学院大学)
曹成虎(韓国保健社会研究院)

企画セッション② 健康寿命についての包括的討論

<組織者・座長> 中澤 港(神戸大学)

- 1) 健康リスク別にみた健康寿命村上 義孝(東 邦 大 学)
- 2) 主観的健康観と日常生活動作の関係からみた健康期間の分析

-別府 志海（国立社会保障・人口問題研究所）
- 3) 日本の都道府県別の疾病負荷研究（1990～2015年）～停滞する健康指標と拡大する
都道府県間の健康格差～野村 周平（東 京 大 学）

自由論題報告 A

A-1 統計と教育

<座 長> 三澤 健宏（津田塾大学）

- 1) 平成27年国勢調査オンライン回答の分析結果熊谷 俊郎（総務省統計局）
- 2) 人口学の観点による義務教育の考察本坊 恭子（大 阪 大 学）

A-2 海外研究

<座 長> 佐藤 龍三郎（中央大学）

- 1) Regional variations of Fertility Levels and Trends in Sri Lanka
.....Kurupitige Dilhani Wijesinghe (Reitaku University, Doctoral student)
- 2) ルワンダの人口変動と土地政策：東部州を事例として島村 由香（東 京 大 学）
松田 浩敬（東 京 大 学）
- 3) サブサハラアフリカの人口政策：人口ボーナス大橋 慶太（国連人口基金）
- 4) フランスにおけるイスラム移民1世・2世における宗教的食事制限の関連要因の変動
.....小島 宏（早 稲 田 大 学）

自由論題報告 B

B-1 出生①

<座 長> 桃田 朗（立命館大学）

- 1) 結婚前の同棲経験と婚前妊娠 日本での第一子出生の妊娠意図における多項
ロジスティック分析茂木 良平（バルセロナ自治大学人口研究センター）
打越 文弥（東 京 大 学）
- 2) 子はかすがいの統計的検証—婚前妊娠結婚と夫婦紐帯の連関に関する多変量解析—
.....南 拓磨（明 治 大 学）
- 3) 日本の夫婦の子どもをもつ効用の認識と家族形成吉田 千鶴（関東学院大学）

B-2 出生②

<座 長> 原 俊彦（札幌市立大学）

- 1) 自然災害が地域の出生力に与える影響に関する研究—東日本大震災の影響について—
.....鎌田 健司（国立社会保障・人口問題研究所）
- 2) 子どもを持つことによる満足度の種類別比較増田 幹人（駒 澤 大 学）
- 3) 性別役割分業と出生：『21世紀出生児縦断調査』による2時点比較
.....福田 節也（国立社会保障・人口問題研究所）
加藤 承彦（国立成育医療研究センター）

自由論題報告 C

C-1 歴史人口

<座 長> 鈴木 允（横浜国立大学）

- 1) 近世東北日本における家族形成のパターンと要因津谷 典子（慶應義塾大学）
黒須 里美（麗 澤 大 学）

- 2) 近世東北町村における人口移動の空間的広がりと地域性 ……………長岡 篤 (麗澤大学)
高橋 美由紀 (立正大学)
黒須 里美 (麗澤大学)
- 3) 種痘の普及に伴う天然痘死亡率の変化を復原する歴史 GIS の構築 ……………川口 洋 (帝塚山大学)

C-2 東京の人口

<座長> 丸山 洋平 (札幌市立大学)

- 1) コーホート変化率の地域分布からみた東京圏における地域人口の動向
……………田村 朋子・小西 純 (統計情報研究開発センター)
- 2) 東京都の男町と女町の形成 ……………坂井 博通 (埼玉県立大学)

自由論題報告 D

D-1 移動・分布

<座長> 三澤 健宏 (津田塾大学)

- 1) 第8回人口移動調査 東京圏の転入・転出 ……………貴志 匡博 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 非大都市圏におけるコーホート規模の変化 ……………清水 昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 3) 非大都市圏出生者の U ターン移動におけるコーホート間変動と地域性
—「第8回人口移動調査」の結果より— ……………中川 雅貴 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 4) ライフイベントに応じた移動 ……………林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)

公開シンポジウム 生きることと幸せ

<組織者> 影山 純二 (明海大学)

<座長> 寺村 絵里子 (明海大学)

- 1) 進化的視点から見た「生」と「死」の役割 ……………大泉 嶺 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 「生きること」の生物学的な意味と「幸せ」の感じ方：生活不満足度のライフ・ヒストリー
……………影山 純二 (明海大学)
- 3) 日本の有配偶女性の幸福度格差
—専業主婦 vs 働く妻、学歴上方婚の妻 vs 学歴下方婚の妻—
……………佐藤 一磨 (拓殖大学)
- 4) 人口史料が語る「生きることと幸せ」?! ～ 究極のパネルデータに見る前近代庶民の
ライフコース ～……………黒須 里美 (麗澤大学)

第2日 2018年6月3日 (日)

企画セッション③ Family Strategy vs. Child Welfare: Comparative Studies of Adoption Using Micro-Level Data from the 18th to 20th Centuries (英語)

<Organizer> Satomi Kurosu (Reitaku University)

<Chair> Hideki Nakazato (Konan University)

<Discussants> Noriko O. Tsuya (Keio University),
Mary Louise Nagata (Francis Marion University)

- 1) Adoption Practices in Northeastern Japan, 1708-1870
……………Satomi Kurosu (Reitaku University)
Hao Dong (Princeton University)

- 2) Dividing Property and Sharing Sons:
 A Socio-economic Family Strategy in the 18-20th Centuries Korea
Sangwoo Han (Sungkyunkwan University)
 Byunggiu Son (Sungkyunkwan University)
 Sungoh Kim (Sungkyunkwan University)
- 3) Giveaway Daughter and Mother's Attachment:
 A Test of Hrdy's Mother Nature HypothesisWen Shan Yang (Academia Sinica)
 Chun Hao Li (Yuan Ze University)
- 4) From Pragmatic to Sentimental Adoption:
 The Evolution of Child Adoption in the United States, 1900-2000
Chiaki Moriguchi (Hitotsubashi University)

企画セッション④ 生物学、疫学に見る数理人口学の応用と発展：人口学における数学的視点

<組織者・座長> 大泉 嶺 (国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) 人口動態と進化における固有関数大泉 嶺 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 1回繁殖型戦略における周期性と生活環恒常性の進化今 隆助 (宮 崎 大 学)
- 3) 時間適応的見方による集団増殖率の解析杉山 友規 (東 京 大 学)
- 4) 基本再生産数 R_0 の数学稲葉 寿 (東 京 大 学)
- 5) 感染症の数理モデル江夏 洋一 (東京理科大学)
- 6) 性器ヘルペス感染症に対する数理モデルの構築と解析國谷 紀良 (神 戸 大 学)

企画セッション⑤ 人口・世帯の将来推計—方法論・推計結果とその考え方—

<組織者> 石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)

<座長・討論者> 高橋 重郷 (明治大学)

- 1) 日本の将来推計人口 (平成29年推計) の方法と結果
別府 志海 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 第1子年齢別出生率のモデリング：競合リスクモデルによるアプローチ
余田 翔平・岩澤 美帆・石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 3) 国際人口移動の現状と見通し是川 夕 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 4) 将来人口推計の科学的基礎と推計手法—わが国と諸外国の比較を通じて—
石井 太・守泉 理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 5) 全国世帯推計に見る未婚・独居の増加 …鈴木 透・小山 泰代・大泉 嶺 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 6) 地域別将来人口推計における手法と結果の概要
小池 司朗・鈴木 透・菅 桂太・鎌田 健司 (国立社会保障・人口問題研究所)

企画セッション⑥ 少子化対策の実効性について計量的・歴史的視点から評価する

<組織者・座長> 池周 一郎 (帝京大学)

<討論者> 赤川 学 (東京大学) ・山田 昌弘 (中央大学) ・筒井 淳也 (立命館大学) ・
 廣嶋 清志 (島根大学)

- 1) 高田保馬の少子化論に学ぶ赤川 学 (東 京 大 学)
- 2) 少子化対策の実効性について歴史的視点から評価する池周 一郎 (帝 京 大 学)
- 3) 近年の出生率反転上昇の分析—少子化対策に関わって廣嶋 清志 (島 根 大 学)

企画セッション⑦ 墮胎と嬰兒殺しの人口学

<組織者> 小西 祥子 (東京大学)

<座長> 鬼頭 宏 (静岡県立大学)

<討論者> 早乙 女智子 (京都大学)・沢山 美果子 (岡山大学)

- 1) 子宝と子返し——近世農村の子育て・その光と影 ……………太田 素子 (和光大学)
- 2) 避妊史における江戸時代の謎……………ファビアン・ドリクセラ (イェール大学)
- 3) 藁の上からの養子：産婆による仲介ケースからみた養育者の決定 ……白井 千晶 (静岡大学)
- 4) 近年の日本における人工妊娠中絶の状況と要因について ……………佐藤 龍三郎 (中央大学)
- 5) 中絶と人口政策の古今東西 ……………林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)

テーマセッション① 国勢調査の不詳問題を考える

<組織者・座長> 阿部 隆 (東北大学)

<座長> 高橋 眞一 (新潟産業大学)

<討論者> 川崎 茂 (日本大学)・井上 孝 (青山学院大学)

- 1) 国勢調査の不詳問題と研究上の課題 ……………阿部 隆 (東北大学)
磯田 弦 (東北大学)
澁木 智之 (東北大学)
- 2) 2015年国勢調査人口移動集計における「不詳」と移動率
……………菅 桂太・小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 3) 不詳が少ない住宅所有関係データの精度に関する考察 ……………丸山 洋平 (札幌市立大学)

自由論題報告 E

E-1 出生③

<座長> 水落 正明 (南山大学)

- 1) 待機児童問題に関する一考察：自治体ヒアリングの結果から
……………守泉 理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 子育て支援策が子どもをもつ意欲に与える効果—ヴィネット調査データを用いた
マルチレベル分析 ……………松田 茂樹 (中京大学)
- 3) 祖父母との同居が男性の育児参加と次子出生との関係に与える影響
……………加藤 承彦 (国立成育医療研究センター)
福田 節也 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 4) 認可保育所入所世帯と保留世帯のその後についての比較調査……………前田正子 (甲南大学)

E-2 出生④

<座長> 早瀬 保子 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)

- 1) アメリカにおけるバースツーリズム—性別選好を中心に—……………梁凌詩ナンシー (東洋大学)
- 2) 台湾における母親の就業と保育サービス利用：就業先の企業規模を考慮した分析
……………可部 繁三郎 (日本経済新聞社)
- 3) 中国新人口政策実施後の出生動向 ……………尹 豪 (福岡女子大学)

自由論題報告 F

F-1 結婚と労働

<座長> 大石 亜希子 (千葉大学)

- 1) 日本の配偶者サーチの伝統と変化永瀬 伸子 (お茶の水女子大学)
- 2) 労働市場における格差と結婚による階層選別—東アジア諸国における実証分析—
.....佐々木 昇一 (神戸大学)
- 3) 一般用マイクロデータ就業構造基本調査版の概要伊原 一 (統計センター)
田中 雅行 (総務省統計局)
北林 三就 (統計センター)

F-2 経済

<座長> 渡辺 真知子 (明海大学)

- 1) 日本の人口政策の人口経済学的分析大塚 友美 (日本大学)
- 2) 年齢分布と金融政策の有効性小黒 曜子 (明海大学)
- 3) 年齢構成と貿易開放度に関する地域別分析衣笠 智子 (神戸大学)
福本 幸男 (大阪経済大学)
- 4) 仮説検定による組み合わせ分析法—修正ウィーバー法との比較研究—
.....井上 希 (青山学院大学)
(鈴木 透 記)

ヨーロッパ人口学会2018年大会

2018年ヨーロッパ人口学会大会 (European Population Conference 2018) が2018年6月6日～9日にかけてベルギーの首都ブリュッセルで開催された。ヨーロッパ人口学会 (European Association for Population Studies) は1983年に設立された学際的な国際学会であり、なかでもヨーロッパにおける人口問題について精力的に研究活動を行っているものである。ヨーロッパ人口学会は2年毎に大会を開催しており、本大会はオーストリアのウィーン (2010)、スウェーデンのストックホルム (2012)、ハンガリーのブダペスト (2014)、ドイツのマインツ (2016) に続いて開催されたものである。本大会では「人口、多様性と不公平 (Population, Diversity & Inequality)」の解明が共通の主眼とされた。

大会はオープニングセッションにおける2つの基調報告に始まり、会期中の3日間で14に大別された多岐にわたる各テーマ (「出生力」、「性・再生産行動」、「家族と世帯」、「ライフコース」、「高齢化と世代間関係」、「国内人口移動と都市化」、「国際人口移動と移民人口」、「健康、幸福と不健康」、「死亡と寿命」、「歴史人口」、「人口データ及び手法」、「経済、人的資本と労働市場」、「人口政策」、「開発と環境、空間」) について、合計121のセッション (約570の口頭報告) と約150のポスター報告が行われた。また、8日には2名の2016年ヨーロッパ人口学会賞受賞者による特別講演があり、いずれにおいても活発な研究交流が行われた。

当研究所からは福田節也 (企画部室長) と菅桂太 (人口構造研究部室長) が参加し、それぞれ研究報告を行った。 (菅 桂太 記)

韓国人口学会 (PAK) 参加報告

6月8日に韓国ソウル国立大学にて韓国人口学会の年次大会 (第1回) が開催され、同学会からの